

【高等学校】

地理歴史科

- ◎社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり養う。
- ①日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②地理や歴史に関わる諸事象について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。
- ③地理や歴史に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚等を深めるようにする。

【中学校】社会科

- ◎社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり養う。
- ①我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。
- ③社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚等を深めるようにする。
- 主体的に社会の形成に参画しようとして、資料から読み取った情報に基づいて社会的事象について考察し表現したりするなどの課題解決的な学習の充実を図る。
- ◇地理的分野では、地理的技術の育成を一層重視するとともに、持続可能な社会づくりの観点から様々な課題を考察させ、歴史的分野では、グローバル化に対応する観点から世界の歴史の扱いを充実させ、公民的分野については、社会参画への手掛かりを得させるために身に付けた概念を現実の社会的事象と関連付けて理解させる指導の充実を図る。

【小学校】社会科(第3～6学年)

- ◎社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり養う。
- ①地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して、社会生活について理解するとともに、調査や諸資料から情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②社会的事象の特色や相互の関連、意味について多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、思考・判断したことを適切に表現する力を養うようにする。
- ③社会的事象について、よりよい社会を考え課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的な考察や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国土や歴史に対する愛情、地域社会の一員としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚等を養うようにする。
- 社会的事象から学習問題を見出し、問題解決の見通しを持って他者と協働的に追究し、追究結果を振り返るなど、問題解決的な学習の充実を図る。
- ◇世界の国々との関わりや我が国の政治の働きへの関心を高める学習、社会に見られる課題を把握して、社会の発展を考える学習の充実を図る。災害における地方公共団体の働き、地域の人々の工夫や努力、地理的・歴史的观点を踏まえた災害に関する理解、防災情報に基づく適切な行動の在り方等に関する指導の充実を図る。

【小学校】生活科(第1, 2学年)

(※現行の学習指導要領を基に作成)

- 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などとの関わりに関心をもち、地域のよさに気づき、愛着を持つことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。
- 身近な人々、社会及び自然との関わりを深めることを通じて、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信を持って生活することができるようにする。
- 身近な人々、社会及び自然に活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。

幼児教育

(※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述)

- よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちや調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりを守り必要性が分かり、決まりを作ったり守ったりするようになる。
- 遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づき判断しようとして役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用したりなどして、社会とのつながりの意識等が芽生えるようになる。
- 身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

社会，地理歴史，公民において育成すべき資質・能力の整理（案）

社会，地理歴史，公民において育成すべき資質・能力の整理（案）		思考力・判断力・表現力等 （理解していること・できることをどう使うか）		学びに向かう力・人間性等 （どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか）	
小学校社会	・社会生活に関する理解 （地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史，それらと人々の生活との関連） ・社会的事象について調べまとめめる技能 （社会的事象に関する情報を適切に集める・読み取る・まとめめる技能）	・社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考え，社会に見られる課題を把握し，社会への関わり方を選択・判断する力 ・思考・判断したことを適切に表現する力		・社会的事象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 （環境保全，自然災害防止，産業の発展，情報化の進展，先人の業績や文化遺産，我が国の政治の働き，世界の国々との関わり） ・よりよい社会を考え学んだことを社会生活に生かそうとする態度 ・多角的な考察や理解を通して涵養される自覚や愛情等 （地域社会の一員としての自覚，地域社会に対する誇りと愛情，我が国の国土に対する愛情，我が国の歴史や伝統を大切にし，国を愛する心情，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚）	
	・我が国の国土と歴史や現代社会の政治，経済，国際関係に関する理解 ・社会的事象について調べまとめめる技能 （調査や諸資料から，社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめめる技能）	・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題を把握し，解決に向けて複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力		・社会的事象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 ・よりよい社会の実現を視野に社会に関わろうとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情等 （我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚）	
中学校社会	・我が国の国土とともに世界の諸地域における地理に関する理解 （日本や世界の地域構成，日本を含む世界の環境と生活の多様性，州単位の世界地誌，地方単位の日本地誌，身近な地域の調査） ・地図や景観写真などの諸資料から，地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめめる技能	・地理に関する事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地域に見られる課題を把握し，複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 ・趣旨が明確になるように内容構成を考え，自分の考えを論理的に説明したり，それらを基に議論したりする力		・日本や世界の諸地域，自分たちが生活している身近な地域に関する社会的事象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 ・地域の地理的な諸課題の解決を視野に社会に関わろうとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情等 （身近な地域や我が国の国土に対する愛情，世界各地の異なる多様な生活文化を尊重しようとする自覚）	
地理的分野	・各時代の特色を踏まえた我が国の歴史（直接的な関わりや間接的な影響を及ぼす世界の歴史を含む）に関する理解 （歴史上の人物との文化遺産，伝統と文化の特色，歴史に見られる国際関係や文化交流のあらまし） ・年表などの諸資料から，歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめめる技能	・歴史に関する事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し，複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 ・趣旨が明確になるように内容構成を考え，自分の考えを論理的に説明したり，それらを基に議論したりする力		・歴史上の諸事象や身近な地域の歴史，他民族の文化や生活に関する社会的事象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 ・歴史上の諸事象から見出した課題の解決を視野に社会に関わろうとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情等 （歴史上の人物と文化遺産を尊重することの大切さについての自覚，我が国の歴史に対する愛情や国民としての自覚，国際協調の精神）	
歴史的分野	・現代社会を捉える概念的枠組みの理解 ・現代社会の政治，経済，国際関係に関する理解 （現代社会と文化，現代社会の見方・考え方，市場の働きと経済，国民の生活と政府の役割，人間の尊重と日本国憲法の基本的原則，世界平和と人々の福祉の増大） ・統計や新聞などの諸資料から，現代の社会的事象に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめめる技能	・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり，現代の諸課題について公正に判断したりする力 ・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力		・現代の社会的事象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 （社会生活における物事の決定の仕方，現実の政治，個人，企業及び国や地方公共団体の経済活動，現実の国際関係） ・現代社会に見られる課題の解決を視野に社会に関わろうとする態度 （他者と協働して考え，社会に参画しようとする） ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情等 （自国を愛しその平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚）	
公民的分野					

62	高等学校 公民科	知識・技能 (何を理解しているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (理解していること・できることをどう使うか)	学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
		・諸課題を捉え考察し、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念や理論の理解 ・倫理的主体、政治的主体、経済的主体、法的主体、様々な情報の発信・受信主体、持続可能な社会づくりの主体に関する理解 ・社会的事象等について効果的に調べまとめる技能	・諸課題について、事実を基に概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力 ・合意形成や社会参画を視野に入れながら、社会的現象や課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に議論する力	・人間と社会の在り方に関わる事象や課題について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、論拠を基に説明・議論することを通して、社会に参画しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚等
	公共	・現代社会の諸課題を捉え考察し、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念的な枠組みの理解 ・倫理的、法的、政治的、経済的主体等に関する理解 ・諸資料から、倫理的、法的、政治的、経済的主体等となるために必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、現代の社会的事象や現実社会の諸課題の解決に向けて事実を基に多面的・多角的に考察したり、構想したりする力 ・合意形成や社会参画を視野に入れながら、社会的現象や課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に議論する力	・社会の在り方や人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、論拠を基に説明・議論することを通して、社会に参画しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚等
	倫理	・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するために必要な概念や理論の理解 ・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力 ・現代の倫理的諸課題を解決するために概念や理論を活用し、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 ・よりよい社会の実現を視野に現代の倫理的諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・対話することを通して、他者や社会と積極的に関わりながらよりよく生きる自己を形成しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についてのより深い自覚等
	政治・経済	・正解が一つに定まらない、現実社会の複雑な諸課題の解決に向けて探究するために必要な概念や理論の理解 ・政治や経済などに関わる諸資料から、現実社会の諸課題の解決に必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる概念等を活用して、社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に解決の在り方を構想する力 ・構想したことこの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成や社会形成に向かう力	・社会の在り方に関わる事象や課題について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、論拠を基に説明・議論することを通して、社会に参画しようとする態度 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについてのより深い自覚等

科目名は全て仮称

① 社会的な見方・考え方をを用いて，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する力

・ 社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連について，概念等を活用して多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる			
・ 社会的事象の意味，特色や相互の関連を多角的に考察できる			

② 社会的な見方・考え方をを用いて，社会に見られる課題を把握し，その解決に向けて構想する力

・ 社会に見られる複雑な課題を把握して，身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる			
・ 社会に見られる課題を把握して，解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる			
・ 社会に見られる課題を把握して，解決に向けて学習したことを基にして社会への関わり方を選択・判断できる			

③ 考察したこと，構想したことを説明する力

・ 適切な資料・内容や表現方法を選び，社会的事象等についての自分の考えを効果的に説明したり論述したりできる			
・ 主旨が明確になるように内容構成を考え，社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			
・ 根拠や理由を明確にして，社会的事象についての自分の考えを論理的に説明できる			

④ 考察したこと，構想したことを基に議論する力

・ 合意形成や社会参画を視野に入れながら，社会的事象等について構想したことを，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論できる			
・ 他者の主張を踏まえたり取り入れたりして，社会的事象についての自分の考えを再構成しながら議論できる			
・ 他者の主張につなげたり，立場や根拠を明確にしたりして，社会的事象についての自分の考えを主張できる			

* 参考 学習の見通しを持ち追究の結果を評価する力

・ 追究の過程や結果を評価し，不十分な点を修正・改善することができる			
・ 追究の結果を振り返り，学んだことの成果等を自覚できる			
・ 学習問題（課題）を把握し，追究の見通しを持つことができる			

社会的な見方・考え方 (追究の視点や方法) の例 (案)

※64

社会的な見方・考え方

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

視点を生かした、考察や構想に向かう問いの例

考察、構想した結果、獲得する知識の例

社会的な見方・考え方：小・中・高等学校の各「見方・考え方」を総称する呼称であり、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする際の「視点や方法」である

◎社会的現象の見方・考え方

位置や空間的な広がり
地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用など

時期や時間の経過
時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性 など

事象や人々の相互関係
工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生(共に生きる) など

考察
社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力

構想
社会に見られる課題について、社会への関わり方を選択・判断する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

地理的分野

◎社会的現象の地理的な見方・考え方

位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し
環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の中で人間営みと関連付けて

考察
社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力

構想
地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

歴史的分野

◎社会的現象の歴史的な見方・考え方

時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し
共通性や相違点などを明確にし、因果関係など事象同士を関連付けて

考察
時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力

構想
歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

公民的分野

◎現代社会の見方・考え方

現代社会を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し
それらの課題の解決に向けて多様な概念を関連付けて

考察
社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力

構想
複数の立場や意見や意見を踏まえて構想する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

◎社会的現象の見方・考え方

位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

考察
社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力

構想
社会に見られる課題について、社会への関わり方を選択・判断する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

◎社会的現象の地理的な見方・考え方

位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し
環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の中で人間営みと関連付けて

考察
社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力

構想
地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

◎社会的現象の歴史的な見方・考え方

時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し
共通性や相違点などを明確にし、因果関係など事象同士を関連付けて

考察
時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力

構想
歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

◎現代社会の見方・考え方

現代社会を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し
それらの課題の解決に向けて多様な概念を関連付けて

考察
社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力

構想
複数の立場や意見や意見を踏まえて構想する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

◎社会的現象の見方・考え方

位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

考察
社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力

構想
社会に見られる課題について、社会への関わり方を選択・判断する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

◎社会的現象の地理的な見方・考え方

位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し
環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の中で人間営みと関連付けて

考察
社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力

構想
地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

◎社会的現象の歴史的な見方・考え方

時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し
共通性や相違点などを明確にし、因果関係など事象同士を関連付けて

考察
時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力

構想
歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

◎現代社会の見方・考え方

現代社会を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し
それらの課題の解決に向けて多様な概念を関連付けて

考察
社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力

構想
複数の立場や意見や意見を踏まえて構想する力

追究の方法
位置や空間的な広がり
時期や時間の経過
事象や人々の相互関係
比較・分類したり総合したりして
国民(人々の)生活と関連付けて

社会的な見方・考え方（追究の視点や方法）の例（案）

考えられる視点例 ○位置や分布に関わる視点 時間距離, 時差, 等質(均質, 同質)性, 類似 など ○場所に関わる視点 共通性, 多様性 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 限界性, 防災・減災 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 移動性, 圏構造(都市圏…), グローバル化 など ○地域に関わる視点 規模, 格差, 変容, 持続可能性 など

社会, 地理歴史, 公民における思考力, 判断力	地理総合(仮称)
---------------------------------	-----------------

○位置や分布に関わる視点 経済距離, 中心性, 単一指標, 複数指標, 総合(指標) など ○場所に関わる視点 立地, 景観, 民族性 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境可能論, 環境決定論 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 中枢管理機能, 階層性 など ○地域に関わる視点 構造, 分化 など
--

社会, 地理歴史, 公民における思考力, 判断力	地理探検(仮称)
---------------------------------	-----------------

○年代の基本に関わる視点 時期, 年代, 時代 など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 変化, 継続, 転換 など ○諸事象の特色に関わる視点 相連, 共通性 など ○事象相互の関連に関わる視点 背景, 原因, 結果, 影響, 関係性, 相互作用 など

社会, 地理歴史, 公民における思考力, 判断力	歴史総合(仮称)
---------------------------------	-----------------

○年代の基本に関わる視点 時期, 年代, 時代 など ○諸事象の推移や変化に関わる視点 変化, 継続, 転換 など ○諸事象の特色に関わる視点 相連, 共通性, 多様性, 複合性, 一体化・多元性 など ○事象相互の関連に関わる視点 背景, 原因, 結果, 影響, 関係性, 相互依存性 など

社会, 地理歴史, 公民における思考力, 判断力	世界史探検(仮称)
---------------------------------	------------------

視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例
- それは、なぜそこに位置するのだろう - それは、なぜそのように分布しているのだろう - そこは、なぜそのような場所になったのだろう - そこでの生活は、まわりの自然環境からなぜそのような影響を受けているのだろう - そこでの生活は、まわりの自然環境になぜそのような影響を与えているのだろう - そこは、それ以外の場所となぜそのような関係を持っているのだろう - その地域はなぜそのような特徴があるのだろう
- なぜ、それはそこにある、そのように広がる、そのような場所となる、そのような自然の恩恵を受ける、そのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、そのような地域となるべきなのだろう - それが、そこに位置する意味(意義、役割、影響)は何だろう - それが、そのように分布する意味は何だろう - そこが、そのような場所である意味は何だろう - そこでの生活が、まわりの自然環境からどのような影響を受けている、どのような意味があるのだろうか - そこでの生活が、まわりの自然環境にどのような影響を与えている、どのような意味があるのだろうか - そこが、それ以外の場所とどのような関係を持っている意味は何だろう - その地域がそのような特徴があるのはどういう意味があるのだろうか
- それを契機に、(地域や国家、日本・世界などの)相互の関係はどのように変化したのか - どのように転換し、後にどのような変化をもたらしたのか - どのような(地域や国家、日本・世界などの)共通点もしくは相違点がみられ、それは後の時代に向ををもたらしたのか - どのような(地域や国家、日本・世界などの)相互関係があり、それは後に向をもちたのだろうか - 歴史に見られる諸課題は、現代社会においてどのような課題と関連して現れているのか
- なぜそのような判断をしたと考えられるのか - どのような選択が可能だったのか - 歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために何を展望するのか
- 何が、どのような背景で、どのように転換したのか - どのような変化の中で、なぜそれは生じたのか - どのような共通点もしくは相違点がみられ、それは社会の構築にどのような影響を及ぼしたのか - 日本や諸地域の動きは、世界のどのような変化と関係しているのか - 歴史に見られる諸課題は、現代を見る視点にどのようなようにつながるのか - どのような意味や意義があり、後にどのような動きをもたらしたのか
- なぜそのような判断をしたと考えられるのか - どのような選択が可能だったか - 歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために何を展望するか

考察、構想した結果、獲得する知識の例

- 地球上の地点は、理由があり、そこに所在していること
(具体例: 札幌島が日本の国土の最北端であるのは、それが他の大陸領土の島々とともに、日本の固有の領土だからである)
- 地球上の各地は、理由があり、多様な特徴を持つこと
(具体例: 東部アジアの温暖多湿な気候と多様な地形は温暖性を高めるため、シベリアの凍土地帯では住宅内の熱を逃がすために、いずれも独特な住居が構築されている)
- 人々の生活は、理由があり、自然の影響を受けることも、それを変化させること
(具体例: サハラ砂漠の側に広がるサハラ地域では、過度な放牧や農耕、薪の採取などにより砂漠化が進んでいる)
- 場所では、理由があり、相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと
(具体例: 朝鮮に苦しむ発展途上国の食料問題を扱っては、人道的な側面とともに政治的混乱、と周辺諸国の貧民衆生を防ぐという効果も考慮される)
- 空間的な点がありは、理由があり、固有の性格を持ち、変容すること
(具体例: 発展途上国には、政治や経済、文化、情報などの機能が首都に一極集中し、地域格差が拡大しているのがある)
- 地域には、それが持つ地理的理由に基拠した、よりよい姿が求められること
(具体例: シンガポールでは、地理的に交通の要衝にあることやその多民族性を生かして、国際的な物流の拠点や金融センターとして为国づくを目指している)
- 地球上の地点が、そこに所在するのは意味があること
(具体例: 沖ノ島や馬場の諸島は、領土としてはもちろん、豊かな海洋資源を抱える排他的経済水域の起点としても重要であり、その存在意義が注目されている)
- 地球上の各地は、理由があり、多様な特徴を持つこと
(具体例: 大都市の都心には、行政機関や大企業の本社等が集まることで、政治や経済の中核管理機能を担っている)
- 人々の生活が自然の影響を受けるとともに、それを変化させるのは意味があること
(具体例: ヨーロッパの過剰な農産物で生みだす休耕地を招いて、平地地の過剰な開墾を止めることとなつた)
- 場所が相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと
(具体例: 都市と都市を結び付けるインフラ等にもその生活環境の選択を引き起すとともに、都市中心部と地域を結び付ける交通アクセス等にもその影響を普及させ、都市全体としての機能を低下させる)
- 空間的な点があり、固有の性格を持ち、変容すること
(具体例: サイズや複雑さの言語が公用語となっているのは、複雑な民族間の軋轢を経験し、多文化主義を推進しようとするせいがある)
- 地域には、それがもたらす意味(影響、役割、意義)を踏まえた、よりよい姿が求められること
(具体例: 戦争によって荒廃した国土を復興し、世界最先端の工業製品を生み出なければならぬ)
- 私たちは、その経験をもとに人類を多くの国々に広げ、世界の繁栄に貢献していかなければならない
- 第一次世界大戦を契機に、国際機構の成立や軍部条約の締結に思ふように国際協定の機運が高まり、これまでは異なる国際秩序作りが目指された。この頃日本も協定協定の機運が高まり、秋田の安定化のために欧米諸国の同意を得て、人々の政治や経済・文化活動は拡大した。20世紀前半には、マスメディアの発達などによって、情報技術が個人にも普及し始め、今では、20世紀後半になると、新たな技術革新などによって、情報技術が個人にも普及し始め、今では、それらを活用して人々の社会活動は地球規模に拡大することが可能になっている。
- 18～19世紀に始まる工業化や社会変動が国民国家のくみが生まれ、その過程で人権思想が広がりはじめた。現代社会においては、人権思想の深まりがみられ、新たな人権問題が提起されていく。
- 18世紀後半を通じて国際的な商業活動が活性化の中で、アジアの諸国が繁栄し、需要を促して進出した西アジア諸国との交流が盛んに行われた。この頃日本も開港による貿易と、オランダ・中国・琉球などの貿易、石油・銅などの交流を通じて情報や文化を吸収した。
- 20世紀前半の二度の石油危機以降、市場経済のグローバル化が一層進んだ。経済活動を中心とする世界の一体化の進行は、経済成長をもたらすエネルギー資源の問題と様々な格差の問題とを人類共通の課題として提起することになった。
- 歴史上の選択・判断の積み重ねが時代を築き、今後の社会を創造する(具体例: 近代化をめぐる日本・アジア諸国の対応は異なり、その後の歴史の展開に大きな違いをもたらした)
- 唐が滅びた宋が成立するまでの時期は、唐を中心とした東アジア文化圏の統合が緩んだ時期である。中国北部や西北部の勢力の動きが活発化し、それに備えるために、宋は独特の国家体制を築いた。
- ポロシェンコ政権は民族自決を求めたが、やがて、独裁を進めるスターリンは非ロシア地域でのロシア人を連れて、ソ連では、少数民族の抑圧の理由に非難を呼んだ。
- 15世紀から17世紀前半、ヨーロッパの各国は独立した主権国家が互いに対立と妥協を繰り返しながら、最初の国際秩序を形成していたが、主権国家体制の思想と内実は国により異なっていた。
- 日本・最初の国際定期通商船が神戸と、本 propriety に結ばれたのは、19世紀末の国際的な経済、金融、政治の動向が深く関係している。
- かつて、平和な世の中は、国家間の利害対立が軍事衝突に至らないようにする仕組みを作ることである。実現されるときは、冷戦後の頃から、差別、貧困、前線などの構造的な問題にも着目し、限りなく考えられ、考えられるようになった。
- 宗教改革は、ローマ教皇や神聖ローマ皇帝の權威を大きく揺るがし、国家が宗教を管理して權力を強化しようとする動きをもたらすと評価できる。
- 歴史上の課題について、時代背景を踏まえて多様な選択や判断を構想することは、現代を理解し今後の社会を展望する力となる(具体例: ミンヘン会議やウストナ戦争の経験は、その後の外交の在り方に影響を与えた)

考えられる視点例

○年代の基本に関わる視点
時期、年代、時代 など

○諸事象の推移や変化に関わる視点
変化、継続、転換 など

○諸事象の特色に関わる視点
相連、共通性、時代性、多様性
地域性、 など

○事象相互の関連に関わる視点
背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性
など

○人間と社会の在り方を捉える視点
幸福、正義、公正、個人の尊厳、自由、平等、
寛容、委任、希少性、機会費用、
利便性と安全性、多様性と共通性 など

○公共的な空間に見られる課題の解決を構想
する視点
幸福、正義、公正、協働関係の共時性と通時性、
比較衡量、相互承認、適正な手続き、
民主主義、自由・権利と責任・義務、平等
財源の確保と配分、平和、持続可能性 など

○人間としての在り方生き方を捉える視点
善悪、生死、徳、愛、共感、幸福、義務、正義、
個人の尊厳、公正、寛容、存在、真理、聖、美
など

○現代の倫理的諸課題の解決を構想する視点
尊重、畏敬、創造、保全、自由、権利、責任、
自立、協働、勤労、多様性、相互承認、平和、
国際協調、持続可能性 など

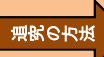
○社会の在り方を捉える視点
個人の尊厳、効率、公正、自由、平等、
委任、希少性、機会費用、選択、配分、分業、
交換、利便性と安全性、多様性と共通性 など

○社会に見られる課題の解決を構想する視点
対立、協調、効率、公正、
比較衡量、具体的な妥当性・法的安定性、
相互承認、適正な手続き、民主主義、
自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、
平和、持続可能性 など

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎社会的事象の歴史的な見方・考え方

・時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し、
・共通性や相連点などを明確にしたり、因果関係など事象同士を
関連付けて

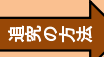


考察
日本の歴史の展開、伝統と文化の特色を多面的・
多角的に考察する力

構想
歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意
見を踏まえて選択・判断する力

◎人間と社会の在り方についての見方・考え方

・人間と社会の在り方を捉える概念的枠組みに着目して課題を
見出し、
・それらの課題の解決に向けて選択・判断の基盤となる考え方
などを関連付けて



考察
人間としての在り方生き方、社会的事象の意味や
意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察
する力

構想
複数の立場や意見を踏まえて、社会を形成する主
体として構想する力

◎人間としての在り方生き方についての見方・考え方

・人間としての在り方生き方を捉える諸概念に着目して現代の倫
理的課題を見出し、
・それらの課題の解決に向けて選択・判断の基盤となる考え方や
哲学、宗教、芸術などに関わる理論を有機的に関連付けて



考察
人間としての在り方生き方に関わる事象の意味や
意義を多面的・多角的に考察する力

構想
複数の立場や意見を踏まえて構想(選択・判断)す
る力

◎社会の在り方についての見方・考え方

・社会の在り方を捉える概念的枠組みに着目して社会の課題を
見出し、
・それらの課題の解決に向けて選択・判断の基盤となる考え方や
政治、法、経済などに関わる理論を有機的に関連付けて



考察
社会的事象の意味や意義、相互の特色や関連を多
面的・多角的に考察する力

構想
複数の立場や意見を踏まえて社会を形成する主体
として構想し、合意形成する力

社会的な見方・考え方(追究の視点や方法)の例(案)

視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例

・何が、どのような背景で、どのように転換したのか
・どのような変化の中で、なぜそれは生じたのか

・どのような共通点もしくは相連点がみられ、それは社会の構築に
どのような影響を及ぼしたのか

・日本や世界の動きは、地域の変化とどのように関係しているのか
・歴史に見られる変化や推移は、現代を見る視点にどのようなにつな
がるのか

・どのような意味や意義があり、後にどのようなような影響をもたらしたの
か(どのような解釈や説明ができるか)

なぜそのような判断をしたと考えられるか
・どんな選択が可能だったか
・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために何を展望するか

・社会を成立させる背景にあるものは何か
・社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断する
ための手掛かりとなる考え方は何か

・よりよい集団、社会の在り方とはどのようなものか
・公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化のために、私たち
はどのように関わり、持続可能な社会づくりの主体となればよい
か

・自らの人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何か、人
間とは何か
・他者どう生き、社会でどう生きていけばよいか、良識ある公民
としていかに在ることができるか、いかに生きべきか
・人間は何を知ることができるのか、なぜ世界が存在するのか、人
間はどのような位置付けで存在するのか
・哲学や宗教や芸術が何を問い、どのような答えを見出してきた
か

・自然とどのように関わり合って生きればよいか、自然科学で知りう
ることと倫理で求めることの違いはどこにあるか
・グローバル化が進む中で、異文化と共生し多様な文化が共存す
る国際社会を築くために考えるべきことはどのようなことか

・政治の意義と機能はどのようなものであるか
・経済活動の意義はどのようなものであるか

・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方はど
のようなものか
・地球社会の発展と住民生活の向上のために、国と地方公共団体
の関連の在り方や私たちの関わり方について、どのような選択・
判断、合意形成を行うか

考察、構想した結果、獲得する知識の例

・中世の社会では、武士勢力や宗教勢力の拡大や庶民の台頭などが起こり、権力
の多様化が新しい文化や地域的な差異を生みだすなどの変化をもたらした
・18～19世紀前半の社会構造は、幕府による政策的な対応にもかかわらず、経済・
産業の成長の中で生じた矛盾によって次第に変化を生じていった
・日本の古代国家の形成過程における背景は、仏教文化の影響や国際関係の緊
張への対応など、東アジア共通の要素が見受けられる
・19世紀、身近な地域の養蚕業の盛衰の背景には、近代化の過程の日本の貿易
や国内の産業構造の変化が関係していた
・戦後の日本経済の推移は、冷戦の国際状況と密接に関係して展開しており、現代
も世界情勢との関わりを踏まえて理解することが必要である
・生類憐みの令は人命に関わるものなど一部が後世に引き継がれたことから、戦国
から平和な時代への価値観の変化を足したとも評価できる

・歴史上の課題について、時代背景を踏まえて多様な選択や判断を構想することは、
現代を理解し今後の社会を展望する力となる(具体例:社会の変化を背景に拡大した米
騒動には、国民意識の変化や情報化の進展などを踏まえた多様な対応の可能性が存在したが、
当時の政権の選択による対応と結果は、後の政府の在り方に大きな影響を与えたことなど)

・今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、様々な立場や文
化等を背景にして社会が成立している
・「その行為の結果である、個人や社会全体の幸福を重視する考え方」と「その行為
の動機としての人間の責務としての公正などを重視する考え方」があり、両者ともに
活用し、自分も他者ともに納得できる解を見出そうと考えることが重要である

・「自立した主体とは何か」を問い、自らを成長させるとともに、人間は社会的な存在
であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うことの両者によってよりよい公
共的空間を作り出していくことが大切である
・選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用す
るとともに、個人を起点として、自立、協働の観点から多様性を尊重して持続可能
な地域づくりに向けて役割を担う主体となることが大切である

・価値あるよいものを求め、正しい行いを選ぶとそれを実行する意志の強さを身
に付けた徳の高い人間を目指し生きる
・自由権の保障のもとに不利な立場にある人々への配慮も必要であるという考え方
を手がかりとして公正・公平な社会について考え続ける
・存在の不思議への驚きから知識への深い憧れが生じること、正解が定めがなく問
うこと自体に意味がある問いがあり、これを問い考え続けることが大切であること
に気付く

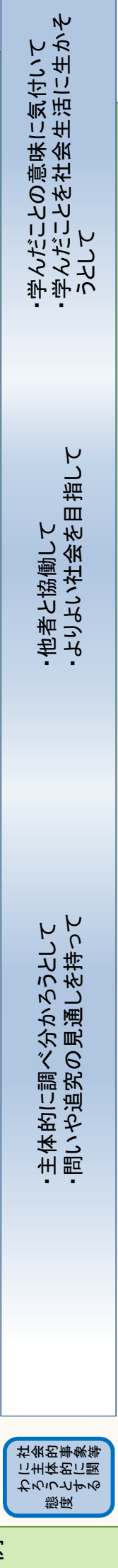
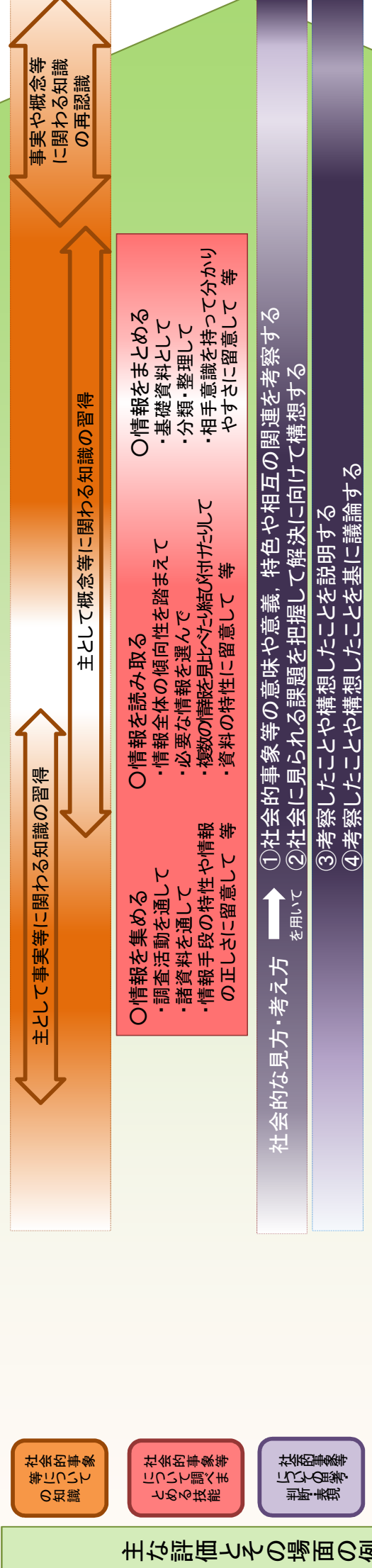
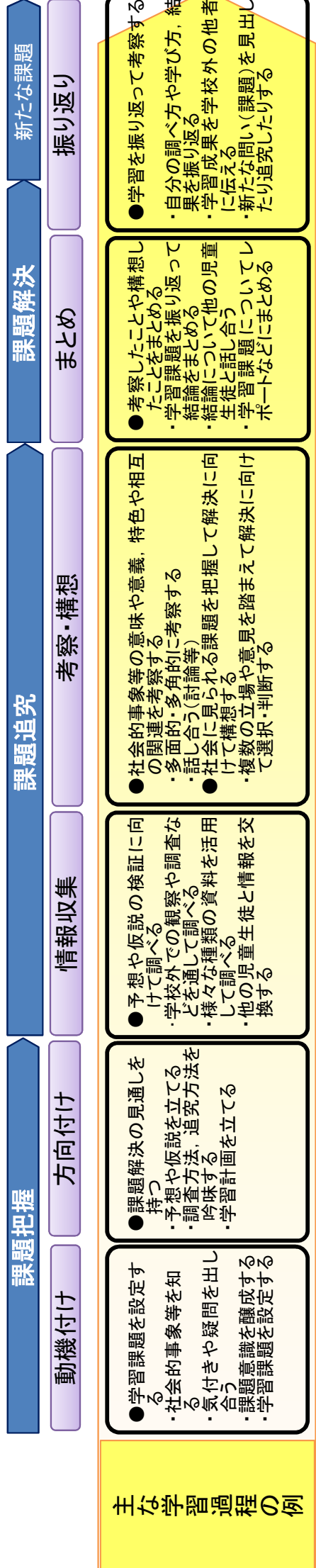
・倫理で考えるのは主に「べき」であるため、自然科学で考える「ある」とは異なるが、
観察した事実を根拠として繰り返された理論を現実の出来事をさらに観察し修
正しながら、判断と理論を調整していくことが大切である
・民族中心主義やオリエンタリズムなどの思考による偏見を自覚し、異文化を尊
重していくことが大切である

・政治とは広義には、個人あるいは集団の考え方や意見、利害の対立や衝突を調
整したり解決したりすることにより、社会の秩序を維持し統合を図る機能を意味して
いる
・経済活動は分業と交換に基づき人間生活の維持・向上のために行われるもので
あり、いずれの社会でも、「何をどれだけ」、「どのような方法で」、「誰のために」生
産すべきか、生産された財やサービスなどをどのように社会の構成員に分配し、いか
に消費するかという経済的選択の問題を解決しなければならぬものである

・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方を考察、追究する際
には、現代政治における個人、政党及び圧力団体の行動、住民運動など現実社
会の事象を取り上げ、客観的な資料を基に様々な角度から主体的に考察すること
が必要である
・個人の尊厳、基本的人権の尊重を基盤に、理論と現実との相互関連に留意しな
がら持続可能な地域社会となる在り方を考察、追究することが大切である

社会, 地理歴史, 公民における学習過程の例 (案)

平成28年7月7日 教育課程部会
社会・地理歴史・公民ワーキンググループ



■ 学習過程全体について留意すべき点

- ・ 上記の学習過程及び評価の場面は例示であり、上例に限定されるものではないこと
- ・ 学習活動のつながりと学びの広がり(深い学び、対話的な学び、主体的な学び)を意図した、単元の構成の工夫等が望まれること
- ・ 社会的現象等については、児童生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが重要であること。その際、特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど偏った取扱いにより、児童生徒が多面的・多角的に考察し、事実を客観的に捉え、公正に判断することのないよう留意すること。また、客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること

地理歴史科

公民科

現代社会の諸課題の解決を視野に入れて考察（各科目について主として「空間」・「時間」及び「現代社会の構造等」に着目）

新必修科目

「地理総合(仮称)」

持続可能な社会づくりを目指すし、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する

「歴史総合(仮称)」

歴史の推移や変化を踏まえ課題の解決を視野に入れて、世界とそこにおける日本について、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する

「公共(仮称)」

現代社会の諸課題の解決に向けて、自立するとともに他者と協働して、公共的な空間を作る主体として選択・判断の基準を身に付け、考察する

新選択科目

「地理探究(仮称)」

世界の諸事象を系統的に、諸地域を地誌的に考察し、現代日本に求められる国土像の在り方について探究する

「日本史探究(仮称)」

我が国の歴史の展開について、世界の歴史や歴史を構成する様々な要素に着目して、総合的に広く深く探究する

「世界史探究(仮称)」

世界の歴史の大きな枠組みと展開について、地理的条件や日本の歴史と関連付けて、広く深く探究する

「倫理(仮称)」

他者と共に生きる主体を育むために、現代に生きる人間の倫理的課題について探究し、自立して思索する

「政治・経済(仮称)」

国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育むために、現実社会の諸課題を広く深く探究する

必修科目で育んだ理解や技能を用いて、より専門的な視野から広く深く探究

※ 地理歴史科については、新必修科目の名称としては、両者を習得することによって当該教科の高等学校における目標を達成するために必要とされる資質・能力を育む科目として両科目に「総合」を付すとともに、生徒の興味・関心や進路等に応じて「総合科目」を基盤に、より専門的な視野から考察を深め、探究を行う科目について「探究」を付すこととしてはどうか。

※ 公民科については、自立した主体として他者と協働して社会に参画し、公共的な空間を作る主体を育むことを目指す科目の内容を端的かつ適切に示すことが可能なものとして「公共(仮称)」とするとともに、選択科目については地理歴史科と同様に探究を行う科目であるが、学習対象である「倫理」については「探究」がその本質的な内容の一部であることから、「倫理探究」といった科目名はなじまず、また、「政治・経済」のみに「探究」を付すことは、同一教科に置かれる同一の性格を持つ科目の名称について混乱させるおそれもあることから、「倫理(仮称)」、「政治・経済(仮称)」とすることとしてはどうか。

高等学校学習指導要領における「歴史総合（仮称）」の改訂の方向性①（案）

特
科
の
特
徴

○世界とそこの中における日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解する科目

○歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目

○歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方（「類似・差異」「因果関係」に着目する等）を習得する科目

平成28年7月13日 教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

現代的な諸課題につながる歴史的な状況（例）

<a 自由と制限><b 富裕と貧困><c 対立と協調>
<d 統合と分化><e 開発と保全> など

取り上げることが考えられる題材

…アジア域内貿易、産業/市民革命、近代科学、立憲政治、議会制民主主義（代議制民主主義）、資本/社会主義、明治維新、国民国家、国民文化、政党政治、ジャポニズム、消費社会、マスコミ、教育、移民、帝国主義、総力戦、植民地、大正デモクラシー、国際協調、世界/昭和恐慌、全体主義、冷戦、地域紛争、地域統合、ナショナリズム、難民、高度経済成長、多国籍企業、市場経済、情報通信技術（ICT）…など

●歴史の扉～歴史をなぜ学ぶか、どう学ぶか～（例：歴史と現在～現代的な諸課題）

●近代化と私たち～社会構造の変化を考察するために

【単元例】

- *結び付く日本と世界
- 産業社会の到来、政治の変革
- 日本の改革、アジアやアフリカの変容など
- （まとめ）歴史と現在①～近代社会

【考察を深める問いの事例】（例）a～bなどを中心として

- ・日本・世界はどのように結び付いたか
- ・工業化と政治変革は何をもたらしたか
- ・日本、アジアやアフリカはどのように変化したか（まとめ/基軸となる問い）社会の近代化は何をもたらしたか など

●大衆化と私たち～個人・集団と社会との関わりを考察するために

【単元例】

- 大衆社会の形成、社会運動の高まり
- 国際紛争と国際協調
- 大戦後の世界・日本など
- （まとめ）歴史と現在②～大衆社会

【考察を深める問いの事例】（例）a～cなどを中心として

- ・なぜ政治参加と文化活動が拡大したか
- ・なぜ戦争がすべての人々を巻き込むものになったか
- ・大戦を経て、どのように社会は変わったか（まとめ/基軸となる問い）社会の大衆化は何をもたらしたか など

●グローバル化と私たち～持続可能な社会を展望するために

【単元例】

- 多極化と地域統合
- 地域紛争と国際秩序
- 世界とそこの中の日本など
- （まとめ）歴史と現在③～グローバル社会

【考察を深める問いの事例】（例）a～eのいくつかから

- ・冷戦構造の変化は何をもたらしたか
- ・冷戦終結後も、なぜ地域紛争は続くのか
- ・日本は国際社会にどのように関わってきたか（まとめ/基軸となる問い）国際社会のグローバル化は新たに何をもたらしたか、あなたはどんな日本/世界を求めか など

・18世紀後半～現在

・産業社会と国民国家を形成する方向に社会が変化した。

・19世紀後半～現在

・大衆の参加の拡大が社会全体の在り方を規定するようになりはじめた。

・20世紀後半～現在

・人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて一層流動するようになった。

歴史の学び方（例）

○社会的事象の歴史的な見方・考え方を
用いて学ぶ方法（例）

・時期、推移や変化に着目して、

・比較して相違や共通性などを明確にし、
・因果関係など事象相互の関連性に留意して、

⇒事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察するなど

*「近代化」「大衆化」「グローバル化」といった近現代の歴史の大きな転換に着目する際には、欧米等特定の地域の動きやそれらの動きが歴史に与える影響のみに着目することがないよう留意する必要がある。

○考察を深める問いについては、取り上げる時期を広げて設定したり、多様な地域を視野に入れて設定することが考えられる。
○各単元の導入において、「現代的な諸課題につながる歴史的な状況」を踏まえた単元の全体構想を示すことが考えられる。
○*「近代化と私たち」に例示した「結び付く日本と世界」では、近代化の前の各地域の状況について、例えばアジアを舞台とする日本と世界の商業や交易に触れ導入とすることが考えられる。
○*上記（まとめ）は、中学校までの既習事項を主に活用しながら、歴史の大きな転換が現在とどのように関わっているかを考察する単元として構成することが考えられる。

現行世界史B科目

「(1)世界史への扉」

(2)諸地域世界の形成

ア西アジア世界・地中海世界
イ南アジア世界・東南アジア世界
ウ東アジア世界・内陸アジア世界
エ時間軸からみる諸地世界

(3)諸地域世界の交流と再編

アイスラーム世界の形成と拡大
イヨーロッパ世界の形成と展開
ウ内陸アジアの動向と諸地域世界
エ空間軸からみる諸地域世界

(4)諸地域世界の結合と変容

アジア諸地域の繁栄と日本
イヨーロッパの拡大と大西洋世界
ウ産業社会と国民国家の形成
エ世界市場の形成と日本
オ資料からよみとく歴史の世界

(5)地球世界の到来

ア帝国主義と社会の変容
イ二つの世界大戦と大衆社会の出現
ウ米ソ冷戦と第三世界
エグローバル化した世界と日本
オ資料活用して探究する地球世界の課題

<参考>

○前近代では、「歴史総合(仮称)」で育んだ歴史の学習を生かして、諸資料を効果的に活用して歴史を考察し表現する。近現代につながる諸地域世界の文化の多様性や複合性を扱い、時間軸(タテ)と空間軸(ヨコ)の変化に着目して理解する。

○近現代では、「歴史総合(仮称)」で獲得した概念等、前近代の学習で成長させた歴史を考察し表現する力を活用し、近現代の諸地域世界の関係性や多面的相互依存関係を捉え、主に空間軸(ヨコ)の変化に着目して、現代につながる諸課題を多面的・多角的に考察する。

資質・能力

○世界の歴史の大きな枠組みと展開について、地理的条件や日本の歴史と関連付けた理解、諸資料から世界の歴史に関する情報を効果的に収集する、読み取る、まとめる技能

○世界の歴史に 関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の

「歴史総合(仮称)」で習得した歴史の学び方を活用して、歴史に関わる諸事象の意味や意義等を広く深く考察し探究する科目

○関連について、世界の歴史の大きな枠組みに 関する概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力

○よりよい社会の実現を視野に入れて、世界や日本の在り方を意欲的に探究しようとする態度 など

新必修教科 目「歴史総合(仮称)」

○世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解する科目 ○歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目 ○歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方(「類似・差異」「因果関係」に着目する等)を習得する科目



「世界史探究(仮称)」

「歴史総合(仮称)」を踏まえた前近代を学ぶ視座: ○近代化以前の多様で複合的な社会、○大衆化以前の身分や階層社会 など

○諸地域世界の歴史的特質

諸地域世界の社会や生活、文化などの多様性を扱い、主に時間的なつながりに着目して、歴史に関わる諸事象を考察し課題を追究する

＜探究例＞◇仏像が誕生し日本に伝来した歴史を整理し地図上でわかりやすく表現したり、農民反乱や人の移動と、気候の変化を関連付けて説明したりする活動 など

○諸地域世界の接触と交流

接触と交流により複合性を強める諸地域世界の特質を扱い、主に空間的なつながりに着目して、歴史に関わる諸事象を考察し課題を追究する

＜探究例＞◇旅行家の記録を読み諸地域の様子を整理し交易活動などを地図を用いてまとめたり、各世紀の地図を作成し時代像を発表したりする活動 など



「歴史総合(仮称)」で獲得した世界と日本に関わる相互的な視野、前近代の学習で成長させた歴史を考察し表現する力を活用

○諸地域世界の結合と再編

結合と再編により関係性を深める諸地域世界の特質を扱い、主に空間的なつながりに拡大に着目して、歴史に関わる諸事象を考察し課題を追究する

＜探究例＞◇越境する人々を取り上げその推移や動向を調べ時代の変化をまとめたり、この時代のポスターや風刺画、映像の内容をよみとりそれらを批判的に吟味し意見交換したりする活動 など

○地球世界の到来

多面的な相互依存関係を深めつつ地球規模で一体化が進む現代世界の構造的特質を扱い、歴史的経緯を踏まえて、人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について多面的・多角的に考察し課題を展望する

＜探究例＞◇現代的な諸課題を歴史的に探究する主題を生徒が設定して、考察した内容や結果を報告し、現在の日本に期待される役割などについて論述する など

資質・能力

○我が国の歴史の展開について、地理的条件や世界の歴史、歴史を構成する諸要素・諸領域に着目した総合的な理解、多様な資料を効果的に収集する、読み取る、まとめる技能

「歴史総合(仮称)」で習得した歴史の学び方を活用して、歴史に関わる諸事象の意味や意義を広く深く考察し探究する科目

○諸事象の意味や意義、特色や相互の関連について、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力

○よりよい社会の実現を視野に、歴史の展開についての総合的な理解を踏まえ、地域や日本、世界の在り方を意欲的に探究しようとする態度 など

現行日本史B科目

- (1) 原始・古代の日本と東アジア
ア 歴史と資料
イ 日本文化の黎明と古代国家の形成
ウ 古代国家の推移と社会の変化
- (2) 中世の日本と東アジア
ア 歴史の解釈
イ 中世国家の形成
ウ 中世社会の展開
- (3) 近世の日本と世界
ア 歴史の説明
イ 近世国家の形成
ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容
- (4) 近代日本の形成と世界
ア 明治維新と立憲体制の成立
イ 国際関係の推移と立憲国家の展開
ウ 近代産業の発展と近代文化
- (5) 第二次世界大戦期の日本と世界
ア 政党政治の発展と大衆社会の形成
イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会
ウ 第二次世界大戦と日本
- (6) 現代の日本と世界
ア 現代日本の政治と国際社会
イ 経済の発展と国民生活の変化
ウ 歴史の論述

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて右の資質・能力を育む

<参考>

○前近代では、「歴史総合(仮称)」で育んだ歴史の学び方を一層高めるため、多様な資料を効果的に活用して歴史を解釈、説明する力を段階的に成長させて歴史を考察し表現する。継承や変化に着目して、近現代につながる各時代の展開や、我が国の伝統や文化への理解を深める。
○近現代では、「歴史総合(仮称)」で獲得した知識や概念、前近代の学習で成長させた歴史を解釈、説明する力を活用し、地域と日本、世界の相互の関係を捉え、現代につながる諸課題を多面的・多角的に考察する。「歴史総合(仮称)」で獲得した概念等に加え、さらに考察を深めるために必要な歴史的な概念等を習得する。

新必修教科目
「歴史総合(仮称)」

「日本史探究(仮称)」

「歴史総合(仮称)」を踏まえた前近代を学ぶ視座 ○近代以前の多様で複合的な社会
○近代以前の東アジア等との交流 ○大衆化以前の身分や階層社会 など

○歴史の展開と資料 -原始・古代の日本と東アジア-

考古資料や文献資料を踏まえて歴史が叙述されること等の理解をもとに、原始・古代の社会や文化の特色を国際環境と関連付けて考察し課題を追究する。

<探究例>縄向(まきむく)遺跡の多様な地域的特色を持つ遺物の資料から王権の特徴を考察したり、東大寺盧舎那仏の建造技術、国際的な仏教文化、国家関係等から律令国家の特徴を考察したりする活動 など

○歴史の展開と解釈 -中世の日本と東アジア-

諸資料を活用して諸事象の意味や意義を解釈する活動等を通して、中世の分立する権力の在り方や、社会変動や文化の主体の多様化などについて、国際環境と関連付けて考察し課題を追究する。

<探究例>倭寇の絵画資料から活動を読み取り外交や政権に与えた影響を考察したり、現代と過去の地図、絵画資料等を利用して寺社と産業、都市の発達との関係や現代への影響を考察したりする活動 など

○歴史の展開と説明 -近世の日本と世界-

歴史事象の多様な解釈を根拠や論理を踏まえて説明する活動等を通して、近現代の直接の前身としての近世社会について、その安定と動揺、変化への胎動などについて考察し課題を追究する。

<探究例>綱吉政権や田沼政治などについて、グループで当時の幕府の法令などを読み解き、特徴を捉え、政策や法令の歴史的な評価を考察し、資料に基づいて根拠を説明したりする活動 など

「歴史総合(仮称)」で獲得した世界と日本の相互的な視野、前近代の学習で成長させた歴史を解釈し説明する力を活用

○歴史の展開と構造 -近代の地域・日本と世界-

必修教科目で学んだ概念などを用い、地域と日本、世界の歴史の相互の関係を地域の資料等を活用して捉え、日本の近代社会の変化と多様な展開について考察し課題を追究する。

<探究例>地域の養蚕業の盛衰の背景を調べ、近代化の過程における日本の貿易や世界の需要、国内の産業構造の変化などの関係を資料に基づいて考察し説明する活動 など

○歴史の展開と論述 -現代の日本と世界-

現代の社会や国民生活の特色について国際環境と関連付けて考察し、適切な主題を設け、根拠となる資料や事象など歴史的な背景を踏まえ、現代につながる諸課題について論述する。

<探究例>高度成長期の公害、近代の飢饉事件などの状況や対策を資料から捉え、地球環境への取り組みについて、それらの歴史を踏まえた現在の日本に期待される役割などについて論述するなど

諸資料に基づき、地理的条件や世界の歴史と関連付けて展開

高等学校学習指導要領における地理科目の改訂の方向性（案）

平成28年7月7日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ

○持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する科目

○グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察する科目

○地図や地理情報システム(GIS)などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する科目

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

現行地理A科目

資質・能力

新必修教科目

地理A

(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察

- ア 地球儀や地図からとらえる現代世界
- イ 世界の生活・文化の多様性
- ウ 地球的課題の地理的考察

(2)生活圏の諸課題の地理的考察

- ア 日常生活と結び付いた地図
- イ 自然環境と防災
- ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査

社会的現象の地理的な見方・考え方

○地球規模の自然システムや社会・経済システムに関する理解、地理に関する情報を効果的に調べめめる技能

○地理に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、地域等の枠組みの中で概念等を活用して多面的・多角的

持続可能な社会づくり に求められる地理科目

を働かせて右の資質・能力を育む

に考察したり、地域にみられる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力

○持続可能な社会づくりに向けて、地球的、地域的課題を意欲的に追究しようとする態度

「地理総合」（仮称）

(1) 地図と地理情報システムの活用

⇒以降の地理学習等の基盤となるよう、地理を学ぶ意義等を確認するとともに、地図や地理情報システム(GIS)などに関わる汎用的な地理的技能を身に付ける。

GIS

(2) 国際理解と国際協力

ア 生活・文化の多様性と国際理解

⇒自然と社会・経済システムの調和を図った、世界の多様性のある生活・文化について理解する。

グローバル

イ 地球的な諸課題と国際協力

⇒地球規模の諸課題とその解決に向けた国際協力の在り方について考察する。

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア 自然環境と災害対応

⇒日本国内や地域の自然環境と自然災害との関わりや、そこでの防災対策について考察する。

防災

イ 生活圏の調査と持続可能な社会づくり

⇒生活圏の課題を、観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて捉え、持続可能な社会づくりのための改善、解決策を探究する。

ESD